

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4371200058
法人名	有限会社 大矢野会
事業所名	グループホームおおやの
訪問調査日	平成 20 年 3 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 4月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社 大矢野会		
事業所名	グループホームおおやの		
所在地 (電話番号)	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8 (電 話) 0964-56-1630		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年4月22日

## 【情報提供票より】20年3月5日記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数	18人
職員数	19 人	常勤15人、非常勤4人、常勤換算16.5人	

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1階建て	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 昼食に含む 円
	又は1日あたり 900 円		

### (4)利用者の概要( 3月5日 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.39 歳	最低 70 歳	最高 95 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	宮崎外科胃腸科医院 あまくさ歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元より信頼の厚い母体医院の高齢者福祉への思いを継承し、入居者を取り巻く人々と環境に配慮しながら一人ひとりにゆっくり向き合うケアに努めている。生活の場となる建物内外の設備の充実やメンテナンス、四季を感じ取ってもらうための菜園や草花の行届いた手入れ等周りの静かな環境と共に入居者に潤いを与えている。運営者は昼食時に毎回ホームを訪れ入居者との会話を楽しまれ入居者も又そのひと時を心待ちにされている様子がほのぼのと伝わってくる。24時間体制での医療支援のケアの確立や隣接デイケアとの直結した支援が行なわれ家族からの信頼も高いホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受けミーティングで課題を検討し、全職員が外部研修への参加等によりレベルアップを図っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員が行なうことでケアを再確認し、見直しの機会であると捉えている。自己評価は職員一人ひとりが意見を出し施設長や管理者がまとめ上げたものである。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、区長・民生委員・家族・入居者・介護保険課職員等の参加を得て2ヶ月ごとに開催されている。ホーム活動や外部評価の説明と結果を報告し、各々の立場で意見をもらいホーム運営に反映させている。広報誌を庁舎介護保険課に設置することとなり地域への啓発が進んだ。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	男性職員の手作りの意見箱を玄関に設置している。他にも定期的に開催される家族会や行事参加時を意見・要望を聞く機会としている。又、ケアプラン表紙にも家族からの意見・感想を求める文章を加え意見収集に努めている。毎月入居者の担当職員より手書きの便りと広報誌“おおやの”を家族へ送付している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接母体医院の長年にわたる地域での存在がホーム運営に活かされ、地元有志による唄や踊り、オカリナ演奏のボランティア、保育園児との交流、地域まつりの参加や地元レストランでの食事会など数々の機会を設け入居者の地域の中での生活を支援している。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には地域密着型としての文言は入っていないが、地域とのつながりが不可欠であることを全職員が認識し、地元婦人会によるボランティアの受け入れや祭りへの参加、地域資源を活用した外出などすでに地域との交流が図られている。	○	理念の見直しの必要について認識されており、地域密着型サービスとして全職員で検討し、ホーム独自の理念とされることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員で作上げた理念が事務所内に掲示され職員の規範となっている。職員はいつでもケアを振り返り理念に基づいたものとなっているか確認するとともに共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接母体医院の長年にわたる地域での存在がそのままホーム運営に活かされ、地元有志による唄や踊り、オカリナ演奏のボランティア、保育園児との交流、地域まわりの参加や地元レストランでの食事会など数々の機会を設け入居者の地域の中での生活を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員が行なうことでケアを再確認し、見直しの機会であると捉えている。前回の評価結果を受けミーティングで課題を検討している。全員が外部研修へ参加する機会を支援した。自己評価は職員一人ひとりが意見を出し施設長や管理者がまとめ上げたものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長・民生委員・家族・入居者・介護保険課職員等の参加を得て2ヶ月ごとに開催されている。ホーム活動や外部評価の説明から結果まで報告し各々の立場で意見をもらいホーム運営に反映させている。広報誌を庁舎介護保険課に設置することとなり地域への啓発が進んだ。	○	会議への職員の交替での参加や参加されなかった家族への内容報告を行なう事により周知に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回広報誌を介護保険課窓口を持参した際、運営推進会議後のホーム活動や入居者の状況報告を行い連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者の担当職員より手書きの便りと広報誌“おおやの”を家族へ送付している。ホームでの日頃の様子や行事に参加の際の入居者の生き生きした表情が紹介されている。家族の希望の一つ“担当職員と入居者が一緒に納まった写真があれば・・・”との思いに応えるべく検討中である。又、面会時に金銭管理の報告を行い確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	男性職員の手作りの意見箱を玄関に設置している。他に定期的に開催される家族会や行事参加時を意見・要望を聞く機会としている。又、ケアプラン表紙にも家族からの意見・感想を求める文章を加え意見収集に努めている。	○	食事利用料金の改正については家族より了承を得ているが、献立表の送付やホーム便りに行事食だけではなく日々の献立を掲載する等料金の明確化に努めていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全体的な職務把握の為ユニット間で異動を行っている。また、離職については新旧引継ぎ期間を一ヶ月程度設け、入居者の性格や心身の状況の把握に努め入居者に不安や混乱が生じないよう最大限の配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は外部研修に全員が参加している。月一回のミーティングも研修会の一つと研修報告やケア全般に関する職員の気づきや問題点等を話し合っている。認知症介護の月刊誌や職員要望にて購入された参考書を活用し日々研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネジャー連絡協議会に所属し研修・交流を行なっているが、職員間の交流には至っていない。近隣の小規模多機能施設との情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホーム内を見学してもらい雰囲気や入居者に少しずつ慣れてもらう様支援している。又、併設デイケアやショートステイを利用されていた方が入居された場合は、同施設を訪問し安心してもらうなど支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活歴に配慮し一人ひとりの話を傾聴しながら昔懐かしい歌を教えてもらったり、花植えや草取り・芋掘りにより収穫の喜びや共に生活する時間を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との関わりを通じ思いや意向の把握に努めている。意思表示が困難な入居者へは、家族やミーティングにより情報の共有化を図り本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画的なカンファレンスを実施し、担当者や他の職員の意見も採り入れ、本人・家族の思いを反映したプランとしている。プランはユニット毎に全入居者分ファイルし全職員が共有できるようにしている。プラン表紙は作成・説明担当者、同意年月日、利用者・家族サイン欄などをはじめ必要項目が全て網羅されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて再アセスメントし、計画を立てている。見直したプランも家族に説明同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による受診対応や買い物支援など柔軟に対応している。隣接医院デイケアの催し物への参加や作業療法士に歩行状態を診てもらったりアドバイスを受けるなど協力が得られている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じ入居者のこれまでのかかりつけ医の受診もあるが、隣接の医院の定期受診を支援している。医療連携により状態変化に応じての受診や隣接医院長による毎日のホーム訪問は入居者や家族の安心・信頼に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に“看取りに関するホームの指針”説明と“看取りに関する意志確認書”を受け入れている。最終的には主治医(併設医院長)と家族で話し合い再確認を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護方針の玄関掲示や、個人情報保護に関する覚書きを交わしている。排泄時の声かけや病気治療中の入居者居室の換気や入室もプライバシーに配慮した対応である。個人記録は本人以外の記名は“他の入居者”という表現としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々に応じた暮らしとなるよう本人の希望に沿った生活支援に努めている。食事に時間を要する入居者へも、味をたずねたり、天候の話をしたり本人のペースに合わせた声かけと見守りによる支援が確認された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	隣接医院管理栄養士の作成した献立をベースに、差し入れ食材も利用しメニューに加えている。訪問当日職員の持参した蕎麦を入居者とともに下ごしらえした一品が春を添え楽しい食事風景であった。季節行事食は器にも配慮し入居者の楽しみとなっている。端午の節句で鯉の生菓子や菖蒲を頭に巻いた入居者の写真にホームの季節・懐古を大切にしたい取り組みが窺われる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に一日置きの入浴としているが希望があれば毎日支援している。汗をかいたり失禁時はその都度対応し、入浴拒否の方へもタイミングをみての声かけ、清拭を取り入れるなど個別に対応している。ゆず・菖蒲湯などの季節風呂や、水質検査結果の掲示、清潔に保たれた浴室と安心・安全・楽しい入浴支援に繋げている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ・菜園の草取り・ほうきやモップ・雑巾がけなどこれまでの生活歴を活かした役割を楽しみながら行えるよう配慮している。ショッピングも兼ねての外出や個人のこだわりメニューの提供など楽しみごとが提供され、居室で過ごしがちな入居者も製作活動に呼びかけホールへ出るよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣スーパーへの買い物や散歩・ドライブなど天候や入居者の希望・体調に合わせてできるだけ戸外に出かける機会を作っている。訪問当日は天候もよく「帽子かぶらな暑かもんな〜！」と職員と笑顔で外出する入居者の姿にホームの日常を感じることができた。又、ふるさと訪問や墓参り支援は入居者の心を安らげる支援となっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を認識し、日中は玄関、裏通用口施錠せず、帰宅願望の強い入居者に対しては目配り、気配りを心がけドライブや見守り寄り添いによる散歩を一緒にを行い、本人の行動を束縛しない支援としている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと年二回避難・消火訓練を実施している。これまでのところ地域の人々の協力を得ての訓練には至っていない。	○	高齢化・重度化の進む現実の中、定期的な訓練を行うにあたり地域の協力を得ていくことは重要である。今後は運営推進会議やホーム便り等の啓発によりホーム内情を更に理解していただき隣接医院の協力と併せ地域の方々の参加を得た訓練の実施を行っていただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は毎回記録に残し健康管理を行っている。水分は三食時、おやつ、入浴後又は必要に応じ声かけにてお茶や牛乳などで支援している。お茶を好まない方へはペットボトルに水を入れ持ち歩きながらもいつでも飲めるようにしたり、状態により“らくのみ”使用など個人に応じた支援である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム入り口や玄関・リビング・洗面所など至るところに家族や職員の持ち寄った季節の花が飾られ、壁面のかざりや置物は心和む雰囲気である。木の温もりある吹き抜けの食堂兼リビングは採光よく食事を準備する音・匂いをまじかに感じ取ることできる。常に清潔を心がけ寒い季節も最低二回は換気を行うことにより臭いやよどみのない空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れた家具やテレビ・好みのカレンダー・家族からの手紙や写真が持ち込まれている。本人や家族の希望で新しい家具の持ち込みもある。持ち込みの少ない居室へは職員の配慮により、写真の掲示や手作りの壁飾りなどにより支援している。居室入り口の目印ともなっている各々異なった手作り暖簾や内障子が懐かしく温かさを醸し出している。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおやの
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市大矢野町上1520-8
記入者名 (管理者)	松永 香 (岩本真理枝)
記入日	平成 20年 3月 5日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を掲げているが、開所時のままであり地域密着型として果たすべき役割を反映した理念の内容にはなっていない。	○	再度、基本理念を見直す必要があり、ミーティング時話し合い、地域密着型として果たすべき役割、地域との関わりを反映した理念を考え、一人ひとりが再確認し、努力していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに理念を書いた額を設置し、いつも確認できている。	○	開所時、全員で考えた理念だが、だんだんスタッフ中心のケアになってきている部分もあり、実践にいかされるよう再確認していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月、ホーム便りを地域に配布し、家族や地域の方々にホームの事を知っていただけるよう努めているが、特別、理念について掲載した事はない。	○	運営会議やホーム便りの内容を見直し、まず、理念を地域の方々に知っていただく事から始めたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方や前の通りを歩いている方には、挨拶を心がけ、利用者や外出した際、知り合いと会った際等、挨拶や遊びに来てもらうよう声かけをしている。	○	ホーム便りや回覧板等で気軽に遊びに来ていただける様声かけをする。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事等に入居者と共に出来るだけ参加する様心がけ、また、婦人会等のボランティアや高校生のインターシップ、小学生、保育園児の訪問等を通じ交流につとめる。	○	利用者の状態をみながら、地域の行事への参加、外出の機会を増やし、様々な年代の方々との交流を心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者への支援のみで、地域への支援、かかわり等について現在取り組めていないが、県雇用対策の一事業所である「くまもとキャリア教育応援団」に参加、登録している。	○	現在のグループホームの位置づけをスタッフ全員で再確認し、利用者の支援をもとにどのように地域とかかわり、役にたてるか考え活動に参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフそれぞれで自己評価を実施することにより自分達が気付かなかった事、出来ていなかった事を再確認し、見直す機会になっており、ケアにつなげるようにしている。外部評価の結果はミーティングにて報告し、検討しているが、具体的に改善計画シートの活用はできていない。	○	今回の自己評価をもとに、シートを活用し、一つ一つ具体的に見直しをしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで実際取り組んでいる事等毎回報告し、外部評価後の運営会議では、評価結果を報告、それぞれの立場で意見を述べてもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月ホーム便りを介護保険課の窓口を持参し、ホームでの取り組みや入居者の生活・様子等を知ってもらうよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特別学ぶ機会はないが、一方のユニットに現在成年後見制度を利用されている方が入居しておられ、入居時、職員に説明し対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特別学ぶ機会はないが、管理者のもと入居者一人一人にあわせたケアの実現に努め、スタッフも理解し日々努力している。	○	講演会、研修等、機会があれば参加し、日々の業務、ケアにいかしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、わかりやすく説明するよう心がけ、説明後書類一式を一度家へ持ち帰っていただき、十分理解してもらったうえで契約をかかわすようしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子や言動が変化した時、気付いたスタッフが寄り添い話を聴くようにしている。そして、その結果を申し送り等に記入し、スタッフ間で共有し、必要に応じて話し合いをおこなう。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当スタッフより、入居者の写真入りの近況報告やホーム便りにて、様子を知らせている。面会時には声をかけ、金銭管理の確認やケアプランの説明等を行っている。	○ 近況報告の内容を見直すことにより、入居者、家族、スタッフの情報の共有、家族の面会・交流を促せるよう工夫していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、質問や意見を出してもらう時間を作っており、また、その後懇談会を同時に開催し、利用者の家族同士で交流がもてるようにしている。その他、意見箱も設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに月1回ミーティングを開催し、意見交換に努めている。全体では3ヶ月に1回程度行っている。	○ 全体ミーティングも毎月開催し、両ユニット統一したケアをめざしたい。対応困難事例等もミーティングで一緒に検討していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度対応できるよう、余裕をもった人員確保につとめている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には不安を与えないよう、年1回各ユニット1名ずつ異動を行っており、研修期間も設けている。また、普段よりスタッフ入居者ともに行き来し、交流に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて県の研修に申込み、また、他事業所の学習会、研修会等機会があればスタッフへ声かけし、できるだけ参加するようにしている。また、全体ミーティングにて研修報告をしてもらっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、研修会等交流する機会はあるが、スタッフ同士の交流はできていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回、連携先の病院と合同で忘年会等を行い、お互い親睦を深め、気分転換を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日必ず顔を出し、入居者、スタッフへ声かけを行っている。職員の資格取得に向けた申し出があれば、対応出来る職員配置、勤務体制を整えている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に必ず自宅や施設及び病院へ出向き、本人、家族と面談し、心身の状態・状況を確認し、信頼関係がつけられるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯やサービスの利用状況等できる限り詳しく、ゆっくり話を聴くようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の相談をしっかりと受けとめ、状況を確認し、現段階で何ができ、どのようなサービスがあるのか説明し、紹介している。	○	もっと細やかなサービスができるよう努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はもちろん、可能であれば本人にもホームを見学してもらおう。また、入居者やスタッフとの共通部分を見つけ出し、安心感をもってもらうようしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの人生経験等話を聴いて、いろいろな場面で意見を求めたり、作業を手伝っていただき、自信をもつていただくようにしている。	○	これからも、もっと入居者と寄り添い、話に耳を傾かせ、お互い求め合っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を設立し、いろんな行事に参加を呼びかけ、家族とスタッフとの交流をはかり、話し合いの場を作り、共に助け合いながら支えていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、近況報告やホーム便りを発行し、本人の日常の様子等具体的に伝えたり、面会時に一緒に話をしたりしている。入居者一人ずつに担当者を決めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた所や、知っている場所にドライブや買物に誘っている。	○	家族等に働きかけ、面会や知人の方との触れ合いを増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士が過せるよう、食事の席やテレビ前のソファの席など配慮している。また、孤立しがちな入居者にスタッフが付き添い、他の入居者と関わられるようゲームや風船バレーなど誘っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事参加の呼びかけや、あいさつ、声かけ等行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で本人と話し合い、希望に添えるよう努め、困難な場合、スタッフ間で話し合い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人や家族より聞き取り調査したり、日々の生活の中で、ゆっくり本人と話すよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタルチェックを施行し、心身の状態を把握し、常時見守りで一人ひとりの過ごし方を把握し、できる事、力を判断し手伝い等していただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時スタッフ全員でカンファレンスを行い、課題を明らかにし、また本人や家族にも日頃の思いや意見を聴き、ケアプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があった場合の、現状に即した計画の作成が実施できていない。	○	状態変化があった場合は、必ず再アセスメントを実施し、新たな計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯と夜勤帯とで文字色を分けて記録をし、スタッフ全員勤務時間開始前に申し送りを実施し、情報の共有に務めている。管理日誌、経過記録の他に申し送りノート、食事・内服チェック表を活用している。	○	個別記録に関して、夜間の様子や気づきを具体的に記録できるようにしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や外出支援に対する柔軟な対応は当然だが、遠方になった場合には、家族に協力を求めている。	○	今後、短期利用できる体制も強化していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のスーパーの利用は、日常的に出来ている。ボランティア(家族、婦人会、小学生、保育園など)は頻回にきていただいている。隣接しているデイケアの催しにも参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容サービスは、本人が希望される時に、翌週の月曜日にあわせてもらい実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域で支える意味での地域包括支援センターとの協働は出来ていない。	○	今後、連携がとれるような体制にしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しているので、状態変化に応じて受診している。その他入所以前よりのかかりつけ医受診にも対応している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	利用者的人生の先輩として尊敬する事の徹底。また、言葉遣い、名前の呼び方等の統一。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	本人の意思や希望を引き出せる様、慌てず、ゆっくり聴きだせるような対応をしたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	意欲のない人居者が多く、何もせず一日を過ぎられる方も多い。本人の希望を把握し、生活にメリハリをつけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	女性の利用者が多いので、お化粧の時間をつくりたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	準備や片付け等ほとんど職員のみで行っており、利用者にも参加を促し、役割づくりにいかしていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		甘いものを好まれる方が多いため、おやつ等の時間等に提供している。飲み物も、お茶、コーヒ、ココア等希望の物を飲んでいただけるようにしている。また、お酒は、お正月、花見等行事の時希望者のみ楽しめる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗がある方には、時間や習慣を把握し、随時トイレ誘導を行っている。便秘の方が多く、現在、下剤に頼っており、排便コントロールが難しい状態である。	○	排便を促せるような体操の実施の検討。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否が強い方もいらしゃるため、無理には勧めないようにしており、清拭や時間をあけての声かけ等に対応している。また、午前と午後にわけタイミングをみて声かけしている。菖蒲湯、ゆず湯の実施。	○	希望される方がいれば、夕方の入浴の検討。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	これまでの生活通りに自分の生活リズムで過していただき、日中も夜間に影響の出ない程度にお昼寝をしていただいている。寝付けない時には、添い寝したりして対応している。また、医師と相談しながら眠剤を調整している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割をもって、活動されている入居者もいるが、何もする事がなく部屋で休まれている方も多。日常生活の役割以外に色塗り、貼り絵等の制作を促し、なるべく全員が何かに参加できるよう心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、職員に任せておられる方が多く、お金を使いたい場合には、すぐに使える事を説明してある。また、小額ではあるが自分で財布をもって管理されている方もいらっしやる。	○	使う機会が少ないので買物等の外出を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	都合のつくかぎり、天気の良い日は、ドライブや近所への散歩、買物等にでかけるようにしている。	○	ドライブや散歩のコースがマンネリ化しているので変化をつけていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出、外食は時折行っているが、職員主体で行き先を決めており、また家族との外出などはあまり出来ない。	○	入居者の希望を取り入れての外出や、家族への協力を呼びかけて日帰り旅行等計画し、実現するための方策を検討し、支援につなげていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいが、自分ではかけることが出来ない方が多く、本人の希望時かけるようにしている。事務所に公衆電話も設置しており、かける方もおられる。また、手紙は、家族等からハガキ等届くが、ほとんどの方が自分の名前くらいで書くことが出来ない。	○	脳の活性化のため、字の読み書きや計算問題等をしてもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	飾り物や入居者の写真など展示し、気軽に訪問出来る様工夫している。面会時は、それぞれの居室にて、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	○	一人ひとりの居室には、馴染みの品や家族の写真、手紙等飾っている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に寄り添い、身体拘束以外の対処法を検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者への目配り、気配りを行っている。利用者が外出しそうな様子を確認したら、さりげなく声をかけたり、一緒についていく等している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は談話室にて利用者と一緒に過しながら作業を行い、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、時間毎に訪室し様子を確認するとともに何事にもすぐに対応できるよう、居室が見渡せる談話室にて過すようしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪きり、ハサミ、裁縫道具等、入居者が望まれる物は使ってもらい、見守りを行っている。保管管理は、職員が行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット等作成し、ミーティングにて改善策を検討し、実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を行ったことはあるが、実際の訓練等定期的に行っていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもと避難訓練、消火器の使い方の訓練を行っている。また、隣接している病院との合同訓練も行うようしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会及びケアプランにて家族に説明をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異変発見時には協力医院にて受診、対応している。気付きは、管理日誌に記入し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が行い、毎回本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。薬の説明書綴りを作成しており、いつでも確認できるようしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の牛乳、ヨーグルト等の飲用、野菜摂取を心がけ、また、水分をなるべく多く飲用される様声かけをしている。	○	排便が3日以上ない場合は、個々の状態にあわせ、下剤にて調整している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ、誘導を行い、それぞれに合わせた見守り、介助をおこなっている。就寝前は、義歯の磨き残しのチェックを行い洗浄をおこなっている。	○	拒否が強く、歯磨きの理解が出来られない方は、スポンジで拭きとったり、緑茶で口腔ケアを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量を確認しており、献立は隣接医院の管理栄養士のメニューをもとにつくっている。おかゆ、きざみ食、トロミつけ等、一人ひとりの状態に合わせて提供している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	すぐに受診し医師の指導をうけ、情報収集をおこない、全職員で学習し対応している。また、入居者、職員共にインフルエンザの予防接種をうけている。天気の良い日には菌ブランチ等外に出して日光消毒をし、出来ない場合は熱湯消毒をしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日に使う分を注文し、足りないものを買って足すようにしている。食器や調理用具は乾燥にかけ、まな板は、肉・魚と野菜を使い分けており、天気のよい日には、外に干したり漂白をし、清潔を心掛けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じてプランターや植木の間、花を植えている。玄関先にベンチを置いている。	○ 花の開花が遅くて花が無い時があるので、早目に植え替え、いつも花をきらさないようにしていきたい。花がある時期は、生花をいけたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、一年間を通じて行事に合わせ壁等に飾り付けをしたり、置物を置いている。また、食堂とホールが一体になっているため、食器を洗う音、食事の支度の音・匂い等生活感を感じる事が出来る。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを中心に囲むように、3つのソファをそれぞれ少し離して配置し、思い思いに移動できるようにしている。別に廊下にもソファや椅子などを置いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をなるべく持ってきていただき、それが無理であれば、本人の希望を取り入れ、好みのものを用意するようにしている。また、家族からの手紙や写真を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除、オムツ交換、排泄時等には、窓を開け、換気をしている。また、においがひどい時は、消臭剤を利用している。常に談話室・食堂スペースにおいては、24時間換気を行っている。	○	冬は寒がりな方が多いため、なかなか窓を開けて換気が出来ていない、一日のうち、何回かは時間を決めて換気を行っていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや車椅子、歩行器等の福祉用具を見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室、トイレ等すぐわかるように表示したり、補助具などにも本人の状態に合わせ、わかりやすいように目印をつけたり、自立へつながるよう、職員間で話し合い環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花を入居者と一緒に植えている。また、玄関先にベンチを置いて、涼んだり、日向ぼっこができようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るくて家庭的な雰囲気がある。カーテンではなく障子を取り入れ、和の雰囲気で落ち着いた空間作りを心掛けています。談話室と台所を一体化することにより、入所者の状態を把握することが出来、すぐに対応出来るようにしています。隣接の医院との連携により、日常的なリハビリ、夜間緊急時の対応に万全を期しています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおやの
(ユニット名)	みどり
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市大矢野町上1520-8
記入者名 (管理者)	松永 香 (森 智子)
記入日	平成 20年 3月 5日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を掲げているが、開所時のままであり地域密着型として果たすべき役割を反映した理念の内容にはなっていない。	○	再度、基本理念を見直す必要があり、ミーティング時話し合い、地域密着型として果たすべき役割、地域との関わりを反映した理念を考え、一人ひとりが再確認し、努力していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに理念を書いた額を設置し、いつも確認できている。	○	開所時、全員で考えた理念だが、だんだんスタッフ中心のケアになってきている部分もあり、実践にいかされるよう再確認していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月、ホーム便りを地域に配布し、家族や地域の方々にホームの事を知っていただけるよう努めているが、特別、理念について掲載した事はない。	○	運営会議やホーム便りの内容を見直し、まず、理念を地域の方々に知っていただく事から始めたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方や前の通りを歩いている方には、挨拶を心がけ、利用者や外出した際、知り合いと会った際等、挨拶や遊びに来てもらうよう声かけをしている。	○	ホーム便りや回覧板等で気軽に遊びに来ていただける様声かけをする。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや行事等に入居者と共に出来るだけ参加する様心がけ、また、婦人会等のボランティアや高校生のインターシップ、小学生、保育園児の訪問等を通じ交流につとめる。	○	利用者の状態をみながら、地域の行事への参加、外出の機会を増やし、様々な年代の方々との交流を心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者への支援のみで、地域への支援、かかわり等について現在取り組めていないが、県雇用対策の一事業所である「くまもとキャリア教育応援団」に参加、登録している。	○	現在のグループホームの位置づけをスタッフ全員で再確認し、利用者の支援をもとにどのように地域とかかわり、役にたてるか考え活動に参加していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフそれぞれで自己評価を実施することにより自分達が気付かなかった事、出来ていなかった事を再確認し、見直す機会になっており、ケアにつなげるようにしている。外部評価の結果はミーティングにて報告し、検討しているが、具体的に改善計画シートの活用はできていない。	○	今回の自己評価をもとに、シートを活用し、一つ一つ具体的に見直しをしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで実際取り組んでいる事等毎回報告し、外部評価後の運営会議では、評価結果を報告、それぞれの立場で意見を述べてもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月ホーム便りを介護保険課の窓口を持参し、ホームでの取り組みや入居者の生活・様子等を知ってもらうよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特別学ぶ機会はないが、一方のユニットに現在成年後見制度を利用されている方が入居しておられ、入居時、職員に説明し対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特別学ぶ機会はないが、管理者のもと入居者一人一人にあわせたケアの実現に努め、スタッフも理解し日々努力している。	○	講演会、研修等、機会があれば参加し、日々の業務、ケアにいかしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、わかりやすく説明するよう心がけ、説明後書類一式を一度家へ持ち帰っていただき、十分理解してもらったうえで契約をかかわすようしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子や言動が変化した時、気付いたスタッフが寄り添い話を聴くようにしている。そして、その結果を申し送り等に記入し、スタッフ間で共有し、必要に応じて話し合いをおこなう。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当スタッフより、入居者の写真入りの近況報告やホーム便りにて、様子を知らせている。面会時には声をかけ、金銭管理の確認やケアプランの説明等を行っている。	○ 近況報告の内容を見直すことにより、入居者、家族、スタッフの情報の共有、家族の面会・交流を促せるよう工夫していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、質問や意見を出してもらう時間を作っており、また、その後懇談会を同時に開催し、利用者の家族同士で交流がもてるようにしている。その他、意見箱も設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに月1回ミーティングを開催し、意見交換に努めている。全体では3ヶ月に1回程度行っている。	○ 全体ミーティングも毎月開催し、両ユニット統一したケアをめざしたい。対応困難事例等もミーティングで一緒に検討していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度対応できるよう、余裕をもった人員確保につとめている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には不安を与えないよう、年1回各ユニット1名ずつ異動を行っており、研修期間も設けている。また、普段よりスタッフ入居者ともに行き来し、交流に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて県の研修に申込み、また、他事業所の学習会、研修会等機会があればスタッフへ声かけし、できるだけ参加するようにしている。また、全体ミーティングにて研修報告をしてもらっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、研修会等交流する機会はあるが、スタッフ同士の交流はできていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回、連携先の病院と合同で忘年会等を行い、お互い親睦を深め、気分転換を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日必ず顔を出し、入居者、スタッフへ声かけを行っている。職員の資格取得に向けた申し出があれば、対応出来る職員配置、勤務体制を整えている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に必ず自宅や施設及び病院へ出向き、本人、家族と面談し、心身の状態・状況を確認し、信頼関係がつけられるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの経緯やサービスの利用状況等できる限り詳しく、ゆっくり話を聴くようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の相談をしっかりと受けとめ、状況を確認し、現段階で何ができ、どのようなサービスがあるのか説明し、紹介している。	○	もっと細やかなサービスができるよう努めていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族はもちろん、可能であれば本人にもホームを見学してもらおう。また、入居者やスタッフとの共通部分を見つけ出し、安心感をもってもらうようしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にテレビを観たり、歌を歌ったり、また寂しそうにされているときは話をきいたり、会話したりしている。そして、出来る作業は一緒に手伝ってもらい、自信をもっていただくようにしている。	○	入居者の要望、一緒に出来ることを見つけ出していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を設立し、いろいろな行事に参加を呼びかけ、家族とスタッフとの交流をはかり、話し合いの場を作り、共に助け合いながら支えていくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、近況報告やホーム便りを発行し、本人の日常の様子等具体的に伝えたり、面会時に一緒に話をしたりしている。入居者一人ずつに担当者を決めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所に、車でドライブに出かけたりしている。また、毎月寺参りを続けている利用者がおられる。(ホームスタッフ同行)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なるべく利用者同士にせず、職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。自室で過される方がおられるため、お茶、食事、行事の時等、その都度声かけをおこなっている。	○	利用者同士が楽しんで参加できる様な活動を考え、それを通してお互いの関係が円滑になるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事参加の呼びかけや、あいさつ、声かけ等行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、その人に合った対応に心掛けている。意思疎通の困難な方には、言葉や表情等から推測したり、その人の立場になって考え、対応するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、経過等随時全スタッフが、確認できるようしてある。また、入居者とのかかわりの中で気付いた事、知り得た情報等、小さな事柄も、連絡帳に記入し、情報を共有するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズム、心身状態を把握しながら努めている。また、毎朝、バイタルチェックを行い確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時スタッフ全員でカンファレンスを行い検討し、また、家族の面会時、現状を伝え、意見を聴くようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化や状況により、家族と連絡をとり話し合い、検討見直しをおこなっている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯と夜勤帯とで文字色を分けて記録し、スタッフ全員勤務時間開始前に申し送りを実施、情報の共有に努めている。他に連絡帳や排尿・食事・内服チェック表等を活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や外出支援に対する柔軟な対応は当然だが、遠方になった場合には、家族に協力を求めている。	○	今後、短期利用できる体制も強化していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のスーパーの利用は、日常的に出来ている。ボランティア(家族、婦人会、小学生、保育園など)は頻回にきていただいている。隣接しているディケアの催しにも参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容サービスは、本人が希望される時に、翌週の月曜日にあわせてもらい実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域で支える意味での地域包括支援センターとの協働は出来ていない。	○	今後、連携がとれるような体制にしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しているので、状態変化に応じて受診している。その他入所以前よりのかかりつけ医受診にも対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>オムツ交換の際には、居室ドアを必ず閉めるようにし、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心掛けている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>利用者に合わせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読み取ったり、利用者の意志確認に努めている。</p>	○	本人の意思や希望を引き出せる様、慌てず、ゆっくり聴きだせるような対応をしたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>基本的な一日の流れはあるが、時間は決めず、一人ひとりのペースを大切に、できるだけ個別性のある支援を行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>鏡を見せたり、身だしなみや髪型が同じにならないようサポートしている。理美容はホームにカットに来られるが、家族が連れて行かれるところもある。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>簡単な下準備を出来る人には手伝ってもらっているが、ほとんど職員がしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、食べこぼし、食べ方を側でサポートし、楽しく食事できる雰囲気づくりも大切にしている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>一人ひとりの嗜好を考慮し、本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるよう支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、尿意のない利用者にも時間をみながらトイレ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。また、オムツの方もチェック表を確認しながら時間毎に交換を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの病状、心臓への負担等も考慮し、おおまかに予定は組んでいるが、各人の体調や希望にあわせて声かけ、誘導している。菖蒲湯、ゆず湯の実施。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮し休息をとってもらっている。夜は談話室にて眠くなるまでテレビを観たり、おしゃべりしたりして過され、自分の生活リズムで休まれている。また、医師と相談しながら眠剤を調整している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各人に合わせ、お願いできそうなことは手伝ってもらおうよう声かけをしているが、入居者の心身の状態等により、居室で休まれる方が多い。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持って管理している方もおられ、一緒に買物に出かけられる方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日や入居者の体調がよい時には、ドライブや近所への散歩、買物等に声かけし、出かけるようにしている。	○	散歩や買物等行く場所が決まっているので、変化をつけていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出、外食は時折行っているが、職員主体で行き先をきめており、また、家族との外出等はあまりできていない。	○	入居者の希望を取り入れての外出や、家族への協力を呼びかけて日帰り旅行等計画し、実現するための方策を検討し、支援につなげていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次ぎ、居室にてゆっくり話をしていたり、職員が間に入り支援したりしているが、本人からの訴えは特にない。事務所に公衆電話も設置している。	○	近況報告に、短くてもよいので入居者にも記入していただいたり、また、年2回、年賀状・暑中見舞い等声かけを行っていききたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るい声、笑顔での挨拶に心がけ、面会時は、それぞれの居室にてゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者に寄り添い、身体拘束以外の対処法を検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者への目配り、気配りを行っている。利用者が外出しそうな様子を確認したら、さりげなく声をかけたり、一緒についていく等している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は談話室にて利用者と一緒に過しながら作業を行い、全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、時間毎に訪室し様子を確認するとともに何事にもすぐに対応できるよう、居室が見渡せる談話室にて過すようしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪きり、ハサミ、裁縫道具等、入居者が望まれる物は使ってもらい、見守りを行っている。保管管理は、職員が行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハット等作成し、ミーティングにて改善策を検討し、実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を行ったことはあるが、実際の訓練等定期的に行っていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもと避難訓練、消火器の使い方の訓練を行っている。また、隣接している病院との合同訓練も行うようしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会及びケアプランにて家族に説明をしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、異変発見時には協力医院にて受診、対応している。気付きは、管理日誌に記入し情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員が行い、毎回本人に手渡し、きちんと服用できているか確認している。薬の説明書綴りを作成しており、いつでも確認できるようしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の牛乳、ヨーグルト等の飲用、野菜摂取を心がけ、また、水分をなるべく多く飲用される様声かけをしている。	○	排便が3日以上ない場合は、個々の状態にあわせ、下剤にて調整している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけ、誘導を行い、それぞれに合わせた見守り、介助をおこなっている。就寝前は、義歯の磨き残しのチェックを行い洗浄をおこなっている。	○	拒否が強く、歯磨きの理解が出来られない方は、スポンジで拭きとったり、緑茶で口腔ケアを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量を確認しており、献立は隣接医院の管理栄養士のメニューをもとにつくっている。おかゆ、きざみ食、トロミつけ等、一人ひとりの状態に合わせて提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	すぐに受診し医師の指導をうけ、情報収集をおこない、全職員で学習し対応している。また、入居者、職員共にインフルエンザの予防接種をうけている。天気の良い日には歯ブラシ等外に出して日光消毒をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はその日に使う分を注文し、足りないものを買ひ足すようにしている。食器や調理用具は乾燥にかけ、天気のよい日には、外に干したり漂白をし、清潔を心掛けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じてプランターや植木の間、花を植えている。玄関先にベンチを置いている。また、玄関には、入居者の家族の方が撮影された写真を毎月展示している。	○	花の開花が遅くて花が無い時があるので、早目に植え替え、いつも花をきらさないようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、一年間を通じて行事に合わせ壁等に飾り付けをしたり、置物を置いている。また、食堂とホールが一体になっているため、食器を洗う音、食事の支度の音・匂い等生活感を感じる事が出来る。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前や廊下などにソファや椅子など配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をなるべく持ってきていただき、それが無理であれば、本人の希望を取り入れ、好みのものを用意するようにしている。また、家族の写真などを飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除、オムツ交換、排泄時等には、窓を開け、換気をしている。また、においがひどい時は、消臭剤を利用している。常に談話室・食堂スペースにおいては、24時間換気を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや車椅子、歩行器等の福祉用具を見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室、トイレ等すぐわかるように表示したり、自立へつながるよう、職員間で話し合い環境整備に努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花を入居者と一緒に植えている。また、玄関先にベンチを置いて、涼んだり、日向ぼっこができようになっている。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るくて家庭的な雰囲気がある。カーテンではなく障子を取り入れ、和の雰囲気で落ち着いた空間作りを心掛けています。談話室と台所を一体化することにより、入所者の状態を把握することができ、すぐに対応出来るようにしています。隣接の医院との連携により、日常的なリハビリ、夜間緊急時の対応に万全を期しています。